

前期 3.8[土]▶4.20[日] 後期 4.26[土]▶6.8[日] 4/21(月)～4/25(金)は展示替のため休館。



能楽の美

2025年
春季特別展

能面・能装束と
能楽ゆかりの茶道具

当館所蔵の能楽関係の美術品は、野村財閥の創始者・野村徳七[号得庵]が、能楽を行う為に入手したものです。得庵が能楽に興味を持ち始めたのがいつ頃からは不明ですが、大正2・3年、得庵30代半ばには謡の稽古を始めています。当時得庵は事業が忙しかったこと、また能楽より先に茶の湯に傾倒していた為、当初能楽にはそれほど熱心ではなかったようですが、その後24世観世左近(1895-1939)と知り合い、次第に能楽にのめり込んでいきました。

蒐集した能面は、得庵が記した道具控帳によると、観世宗家と水戸徳川家からのものがほとんどである事がわかります。観世宗家の面は昭和14年に得庵が譲り受けたもので、水戸徳川家の面は大正7年10月の同家の売立で入手しました。

能装束は、大正5年の西本願寺の売立で豊臣秀吉が所持したと伝わる「黒船段織厚板」を、また徳川家や伊達家からもいくつか入手していますが、得庵の能装束のコレクションの大半は昭和11年6月に行われた加賀前田家の売立によるものです。

今回は得庵が蒐集し、実際に演能で用いた館蔵品の能面・能装束をはじめ、能管・小鼓の楽器や小道具、能楽の曲目が銘としてつけられたものなど、能楽ゆかりの茶道具も合わせて展示します。



黒船段織厚板 [前期展示]



(重要美術品) 早苗尉 [後期展示]



円山応挙筆 高砂図 [前期展示]



粉溜住古蔦絵平棗 [後期展示]



古染付桜川香合 [前期展示]



(重要文化財) 千鳥蔦絵面箱 [3/8～3/30 期間限定展示]



《主な展示作品》

[前期] (重要文化財) 千鳥蔦絵面箱 [3/8～3/30 期間限定展示]・出目洞水満昆作 笑尉・要石恵尉・小面・出目洞白満喬作 孫次郎・(重要美術品) 龍女・般若・黒船段織厚板・白地梅垣蒲公英雪輪紋縫箔・能管 銘 龍丸・胴箔地蔦紋鬘帯・桜花桐鳳凰神扇・日出松扇・古染付鯉耳付花入 銘 高砂・古染付桜川水指・薩摩肩衝茶入 銘 忠度・高麗青磁茶碗 銘 鶴亀 など

[後期] (重要美術品) 早苗尉・近江満昌作 小尉・伝小牛作 真角・千種怪士・伝赤鶴作 小獅子・若女・出目洞白満喬作 老女・紅白段金市松御所車夕顔紋唐織・紫地熨斗秋草紋長絹・神坂雪佳作 笹水と松梅扇(一双)・芙蓉蔦絵太鼓胴・樂道入作 黒茶碗 銘 夕霧・千宗且共筒茶杓 銘 道成寺・江岑宗左共筒茶杓 銘 千歳・芦屋真形竹生島地文釜 など



市バス/京都駅・四條河原町・三条京阪前より
⑤系統「南禅寺・永観堂道」下車、徒歩約5分
地下鉄/「蹴上」駅下車、徒歩約10分

呈茶席

椅子席の茶室にて上生菓子付き抹茶を1客1,000円でお召し上がりいただけます。(10:00～16:00)



X



Instagram



YouTube



野村美術館
Nomura Art Museum